

# Pemetrexed for advanced non-small cell lung cancer patients with interstitial lung disease

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2014-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 元康 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001546">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001546</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1483 号

Pemetrexed for advanced non-small cell lung cancer patients with interstitial lung disease

(間質性肺疾患合併非小細胞肺癌患者に対するペメトレキセド投与の検討)

加藤 元康 (かとう もとやす)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

間質性肺疾患(Interstitial Lung Disease: ILD)を合併する非小細胞肺癌(Non-Small Cell Lung Cancer; NSCLC)症例の化学療法においては高率に薬剤性肺障害が発症するため、その投与には慎重を要する。Pemetrexed (PEM)は NSCLC に対する重要な薬剤の一つとして頻用されているが、ILD 合併症例における PEM の安全性や有効性はまだ明らかになっていない。本研究では、NSCLC 症例の化学療法における PEM 関連の有害事象、特に肺障害の発症率を明らかにし、更に ILD、特に特発性間質性肺炎(Idiopathic Interstitial Pneumonitis: IIPs)合併の有無により、薬剤性肺障害をはじめとする有害事象とその効果について明らかにすることを目的とする。順天堂大学附属順天堂医院において 2009 年 4 月から 2013 年 6 月までの期間で NSCLC に対して PEM 単剤投与が行われた 116 例を対象に、IIPs 合併例(IIPs 群)25 例、放射線肺臓炎や膠原病合併間質性肺炎など IIPs 以外の ILD 合併症例 3 例、ILD 非合併例 88 例(non-ILD 群)に分け、IIPs 群、non-ILD 群において後方視的に有害事象、特に肺毒性、および治療効果の比較検討を行った。また IIPs 群を胸部高分解能 CT の所見により、蜂巢肺を認める Usual Interstitial Pneumonia(UIP)群 12 例、蜂巢肺がない non-UIP IIPs 群 13 例に別け、肺毒性について検討した。IIPs 以外の ILD 合併例は本研究からは除外した。有害事象としての肺障害の発症は全体で 4 例、発症率は 3.6%であり過去の報告とほぼ同等であった。IIPs 群では 3 例、発症率は 12.1%、non-ILD 群では 1 例、発症率は 1.1%であり有意に IIPs 群で高い発症率であった。また UIP 群と non-UIP IIPs 群での比較では、UIP 群のほうが肺障害は発症頻度は高い傾向にあった。無増悪生存期間に有意差はなかったが、全生存率は IIPs 群の方が non-ILD 群より短い傾向にあった。また単変量解析、多変量解析により有意な肺障害のリスク因子として IIPs が挙げられた。IIPs 合併 NSCLC 症例への PEM 投与は肺毒性を生じる可能性が有意に上がるため、IIPs 合併例への PEM 投与は肺障害への十分な注意を要すると考えられた。